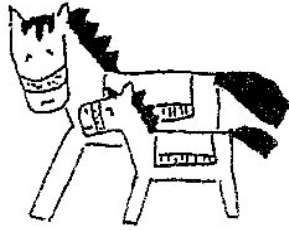


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



令和4年 11月 No.336

〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<https://oumanooyako.com>



(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		11月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
11月 4日 11日 25日	金	ヨガを楽しむ会 14:30～16:00	体を動かしていると疲労の回復も 早くなりました。どうぞおためし下さい。	
11月 10日 24日	木	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	子どもたちに人気のおはなしの会です。	
11月 14日 28日	月	体験保育 15:00～17:00	令和5年4月から入園をお考えの方、 一度、見学もかねて遊びにおいで下さい。	
11月 18日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	今月は屋島山上ボランティア協会会員の折井廣正氏に 屋島についての楽しみ方を話していただきフリートークします。	
11月 19日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	紙皿シアターを作りますので、ことば遊びや歌あそび お話クイズなどに活用しましょう。	

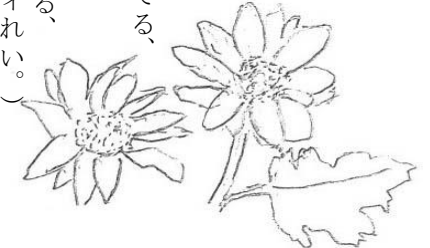
・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して いますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)	育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活 入園・見学についての相談もどうぞ。
--	---

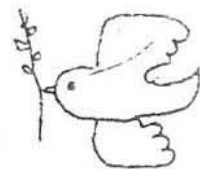


『金子みすゞ童謡全集』より

叔母さん家は遠いけど、
秋で、日和で、いいな。
花のお使い、いいな。

花のお使い
白菊、黄菊、
雪のような白い菊。
月のような黄菊。
たあれも、誰も、みてる、
私と、花を。
(菊、きいれい、
私を持ってる、
だから、私はきいれい。)





母国日本の誇りを忘れまい

倫理研究所理事長 丸山 敏秋

国際連合に加盟している国々には、日本を尊敬したり、憧れたり、親しみを感じている親日国がいくつもある。その理由は大きく三つになろう。①かつて自国民が日本人から救助されたり手厚くもてなされたりしたことへの感謝、②日本の豊かな自然や伝統文化に対する憧憬、そして③日本の技術力やポップカルチャーに対する関心である。ここでは①を理由とする親日国を知っておきたい。

たとえば東欧のポーランドである。かつてはリトアニアと共和国を形成し、ヨーロッパ有数の大国になったこともあった。しかし十八世紀以降は他国の支配と国土の分割を繰り返し、ようやく現在のポーランドになったのは 1989 年だった。日本とポーランドの絆は深い。1905(明治 38)年に日露戦争が終わると、ロシアのポーランド人捕虜数 1000 人に対して、四国の松山に専用の収容所を設け、特別に厚遇した。第一次世界大戦後とロシア革命の混乱期には、シベリアに戦争で親を亡くしたポーランドの孤児たちが取り残されていた。

救出の要請に手をさしのべたのは日本だけである。シベリアに出兵していた日本陸軍が、合計 763 名の孤児を各地で救出し、ウラジオストクから軍用船で福井県の敦賀に輸送。その後、孤児たちは東京と大阪で愛情に包まれて養護された。やがて孤児たちが祖国に船で帰るときには、別れを惜しみ、「君が代」を歌って感謝の気持ちを伝えたという。

イスラエルには「ヤド・ヴァシエム」と呼ばれる国立の「ホロコースト記念館」がある。かつてそこを訪ねたとき、大量虐殺されたユダヤ人たちの顔写真と氏名がスクリーンに映し



出されるコーナーで、胸が締めつけられた。危険を冒してナチスドイツの迫害からユダヤ人を守った非ユダヤ人は、ヤド・ヴァシエムより「諸国民の中の正義の人」として顕彰される。

日本からは戦時中に「命のビザ」を発給してユダヤ人をホロコーストから救った杉原千畝(リトアニア・カウナス日本領事館領事代理)がその仲間入りをしている。ゆえにイスラエルの親日度も高い。



ヨーロッパとアジアの文化が交差するトルコも親日国として名高い。きっかけは1890(明治23)年の遭難事件だった。トルコの特使団を乗せた軍艦エルトゥールル号が、和歌山県東牟婁郡串本町沖にある紀伊大島の近くで座礁。500名以上の犠牲者を出したが、島民たちによる必死の救援活動により、69名の乗組員が救助されてトルコに送り届けられた。2015年にトルコとの合作で映画化もされたので、ご存知の人も多いだろう(『海難1890』)。トルコ国民はこの日本人の真摯な対応をいまだに感謝している。

黒海とカスピ海に挟まれたコーカサス地方に、アゼルバイジャンという小さな国がある。1991年に旧ソ連から独立したイスラム教の国。人口約1000万人で、国土も日本の4分の1しかないが、向こう百年は枯れることはないと言われるカスピ海油田に恵まれていて、近年は急激な発展を遂げている。この国も親日なのは、元々はオスマントルコから派生した国だけに、国民はエルトゥールル号救出の話を通り返し聞かされ、日本に憧れてきた。首都バクーの真ん中には日本庭園が造られ、子供たちも幼い頃から柔道や空手などを習っている。和食やアニメも大人気で、半端ではない需要があるという。

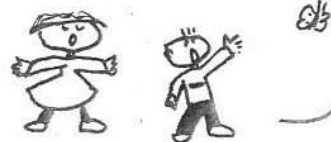
今年になってロシアによるウクライナ軍事侵攻が起きたことから、旧ソ連を構成していた国々への関心が高まった。その方面の優れた研究で知られる廣瀬陽子氏(慶應義塾大学教授)

をゲストに招いた研究会に出て、筆者はアゼルバイジャンを含め、旧ソ連から独立した国々の歴史を垣間見て驚いた。実に複雑な経緯を辿って現在がある。戦いで多くの血が流れ、飢餓で命を落とした大勢の人々がいた。日本人にはどうても想像が及ばない。

ウクライナやカザフスタンやウズベキスタンなど、旧ソ連に属していた親日国は数多い。台湾をはじめフィリピンやタイなどの東南アジア諸国だけでなく、世界中に親日国が存在している事実を、日本人はもっと知るべきであろう。そして先人たちの偉業を讃え、自国の自然や文化に自信を持ち、胸を張りたい。そしてさらに敬愛される国を目指したい。そのための教育が強く求められている。

近年では安倍晋三元首相の存在がある。安倍氏は在任中の2019年1月の施政方針演説で、「この6年間、積極的平和主義の旗の下、国際社会と手を携えて、世界の平和と繁栄にこれまで以上の貢献を行ってきた。地球儀を俯瞰する視点で、積極的な外交を展開してまいりました。」と胸を張った。それが誇張でも何でもなかったことは、元首相が凶弾に斃れたときに、なんと260を超える国や地域などから、1700件以上もの弔意とメッセージが殺到したことでも証しされる。

日本の誇りを取り戻してくれた元首相を失った痛手は計り知れないが、その偉業を正しく理解し、その遺志を継承する努力を惜しんではならない。



丸山 敏秋（まるやまとしあき）

1953年、東京都生まれ。著者『経営力を磨く—未知への旅 III』、『至心に生きる』、『家庭のちから』、『万人幸福の葉を読む』他多数。

